教材の活用場面

活用した教材	どうすれば相手に効果的に伝わるか？（教材番号 B4-8）		
教材ＵＲＬ	https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/tokyo_model/contents0521/index.html		
STEP	STEP4	**領域**	B 情報活用
学校名	品川区立伊藤学園	**校種**	中学校
学年	第７学年	**教科等**	理科
単元名	単元２　物質のすがた　　４章　水溶液		
活用の概要	東京都教育委員会が作成したデジタル教材を活用し、相手に効果的に伝えるためのポイントを学び、水溶液の参考書を作成する際に他者から見ても分かりやすいように要点をまとめることができるようにする。		

活用の様子

【ポイント１】デジタル教材を利用して、まとめ方のポイントを知る



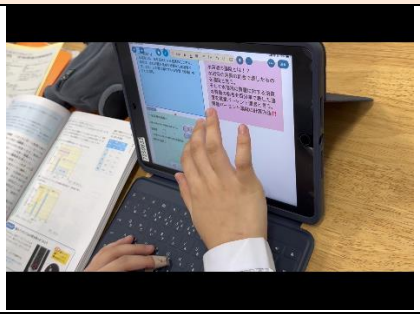
情報活用能力デジタル教材「どうすれば相手に効果的に伝わるか？」のクイズに取り組み、他者から見て分かりやすいまとめ方を知る。

【ポイント２】班毎に要点を確認し、分担する



課題「水溶液についての参考書を作成しよう」を伝え、班毎にどのようにすれば効果的に伝わる参考書が作成できるのか話し合う。水溶液分野の要点を確認し、作成箇所を分担する。

【ポイント３】端末上でデータを共同編集する



アプリケーションの機能の一つである共有ノートを活用し、水溶液の単元の参考書を作成する。班内でお互いに見せ合い、意見交換をしながら作成する。ポイント１で学習した内容を意識し、教科書やインターネットを参考にする。

段階	●主な学習活動・生徒の活動	○支援・留意点■デジタル教材☆評価
導入	**1　本時の課題を知る** ・本時の課題「水溶液についての参考書を作ろう」を説明する。	○本時の課題を伝える。前時までに水溶液について学習した内容を簡単に振り返る。
展開	**2　デジタル教材を利用して、「どうすれば効果的に相手に伝わるか」を知る** ・情報活用能力デジタル教材を活用し、効果的に伝える方法について知る。 **3　グループで協働して考え、担当を分担し要点をまとめる** ・教科書、授業プリント、インターネットを活用して、要点を整理する。 ・作成した参考書を１つにまとめて、ロイロノートの提出箱に提出する。	○生徒が分かりにくい言葉を補足説明する。 ■情報活用能力デジタル教材「どうすれば相手に効果的に伝わるか？」のクイズに取り組む。 ○作業の進まない生徒には教師が個別の声かけを行い、ヒントを与える。 ■インターネットを活用しても良いことを伝える。 ■アプリケーションの機能の一つである共有ノートを活用し、班内でお互いに見せ合い、意見交換をしながら作成する。ポイント１で学習した内容を意識し、教科書やインターネットを参考にしながら課題を進める。 ■端末の操作に困る生徒に操作方法を説明する。 ☆相手に効果的に伝えるために、レイアウトや画像などを使いながら表現することが出来る【思考・判断・表現】
まとめ	**4　工夫された作品を紹介する** ・端末の画面をモニターに投影し、各班で作成した参考書の工夫点を解説する。	○画像などを上手に活用している作品を紹介し、次回以降の参考とする。 ■提出された作品の中から、工夫が見られるものをスクリーンに投影し、全体に紹介する。 ■提出された参考書は、クラス全員が一人１台学習者用端末で見ることができる設定にする。